

4章

問題

【1】

A.

全訳

私が思い出すのは、ある事が理論上は事実だとしても、実際には修正を要する、という通俗な言葉を私が使ったことに対し、父が激怒し、私に理論という単語を定義させようとし、結局徒労に終わった後で、父がその意味を説明し、私の使った通俗的な言い回しの誤りを示し、理論という単語を正確に定義できなかったという点と、理論が実際とは矛盾するものかもしれないと話した点で、自分が前代未聞の愚かしさを露呈してしまったということを十分に納得せざるを得なかったということである。この点で、父はずいぶんと不条理のように思えるし、おそらく実際そうであったのだろうが、思うに、それは私の過ちに腹を立てたという点においてのみであろう。己の手に余ることを何一つとして要求されないような生徒は、できることさえ一切しないものである（から）。

B.

全訳

確かに、たとえ職業が何であろうと成功には競争の要素があるが、同時にまた尊敬を受けるのはただ成功したという事実ではなく、成功の原因となった優秀さ（それがどのようなものであろうとも）なのである。科学者は金を儲けることも儲けないこともあるだろう。が、金を儲けた場合のほうが儲けない場合よりももっと尊敬されるということは絶対にない。有名な学者や詩人が貧しいことを知って驚く者はいない。いやそれどころか、このような場合には貧しいこと自体が、ある意味では名誉なことなのである。

C.

全訳

①イギリス人の精神と性格、あるいは生活様式において、詩を生み出すのにこれほど有利であるものとは何であろうか。②イギリス人はたいていの民族よりも、その長所のためばかりでなく欠点のため、詩の生まれる源泉に近いということが、確かに、その答えであるに違いない。もしイギリス人の家がその居城であるとすれば、その精神もほとんど非社交的のままで思われるくらいにその居城なのである。イギリス人は、隣人の知的・感情的プライバシーを尊重することに慣れているので、自己に対しても同じような寛容を期待する。③もっと社交的な国民は、その思想を共用の貯水池につぎ込むが、イギリス人は自己専用の井戸から、自分の私的な利用のために、骨折って自分の考えを汲み上げ続けるのである。

【2】

解答例

《解答例 1》

AはBの著作の書評を行ったが、Bはそれに対する抗議を書面で申し込んだ。Aは自身の偏見を認めながらも、Bの著作が嫌いでないこと、書評を軽々しく扱ってはいないことを主張して、Bの誤解を解こうとしている。(98字)

《解答例 2》

AはBの著作の書評を行ったが、Bはそれに対する抗議を書面で申し込んだ。AはBの著作が嫌いなわけではなく、また、Bに不公平呼ばわりされて傷ついていることを伝えてBの誤解を解こうとしている。(93字)

《解答例 3》

AはBの著作の書評を行ったが、Bはそれに対する抗議を書面で申し込んだ。Aはもし自分が書評を軽々しく扱っているように見えるならば、それは自分の不適切な文章の責任であると言ってBの誤解を解こうとしている。(100字)

解説

指針

事情：

AはBの著作の書評を行ったが、Bはそれに対する抗議をAに書面で申し込んだ。

Aの弁解：

- 1) 私はBの著作が嫌いなわけではない。
- 2) 不公平呼ばわりされて心外だ。
- 3) 私が偏見の持ち主であることは認める〔→偏見のない人間などいない〕。
- 4) 私は書評を軽々しく扱っていない。
- 5) 軽々しく扱っているように見える責任は私の文章表現の拙さにある。

↓

趣旨：Bの誤解を解くこと〔怒りをなだめること〕。

↓

上記の「事情」と「趣旨」を要約答案の「骨子」とし、制限字数を満たすために「Aの弁解」の内容を付け加える。「骨子」の部分さえ含まれていれば、あとは1)～5)のどれを選んでもかまわない。

↓

「1；3；4」を用いる→《解答例 1》

「1；2」を用いる→《解答例 2》

「5」を用いる→《解答例 3》

全訳

私はあなたに即座に返事を書かねばなりません。それはこれ以上になくほどに爽やかな晴天の午前に舞い込んできております。私は手紙によってではなく、あなたがこのテラスにいて、私が決して嫌悪などしていないあなたの著作について話をさせてくれればいいのに、と思います。どんな印象を伝えるべきか、私の頭を悩ませるのは、思うがままに筆を走らせる

—— すなわち言いたいことを言い尽くすのに足るだけの余地が書評にはないということである。これは本当に言い訳ではありません。しかし不公平呼ばわりされること —— それはひどく私を傷付けます。そしてそういうことによって、あなたは私が持っていてしかるべき程度の正直ささえ、持ち合わせていないと言っているように思われます。私は偏見を持っています。それは認めますが、我々はだれしも多かれ少なかれ偏見を持っていると思います。しかし誓って言いますが、私は書評することを軽々しく扱ってはおりません。そしてもし私がそのように見えるとすれば、それは私の不適切な書き方のせいなのです。

注

- ℓ. 1 ◇ heavenly *adj.* = very pleasing 「天 (= heaven) にも届かんばかりの」
cf. heavenly body 「天体」
◇ fair *adj.* = fine and dry ; clear ; beautiful
- ℓ. 2 ◇ I wish (instead of writing) you were here on the terrace and you'd let me ...
which I far from detested.
○ wish + 仮定法過去
○ far from = not at all
○ detest *vt.* = dislike very much; hate
- ℓ. 3 ◇ What an impression to convey!
後続の my trouble を具体的に説明する言葉として解釈した：筆者が書評を行なう際に常に頭を過ぎる言葉。
- ℓ. 4 ◇ to get going 「進行を得る」《直訳》
辞書の記述を用いれば、"get going = begin going" であるが、文脈にうまく当てはまらないので、後続の to say... と同格と考えて適当な訳語を見繕い、fully はこれらの同格語句の双方を装飾すると解釈した。
- ℓ. 6 ◇ might *aux.* 《仮定法：婉曲》「～し得ように」
○ expressing complaint that an exception is not fulfilled (期待が満たされない不満を表明する)
cf. He *might* offer to help. (彼は援助を申し出てくれてもよさそうなものののに。)
◇ prejudiced *adj.* < pre- (= before) + judgment 「前もっての判断」
◇ well: expressing acceptance of a foregoing remark (前述の言葉の容認を表明して)
◇ all of us : we の同格語句
- ℓ. 7 ◇ cross my heart: used to emphasize the honesty of what one says (胸に十字を切る)
- ℓ. 8 ◇ unfortunate *adj.* = unsuitable or regrettable

【3】

ポイント

冷戦期は、社会主義思想を排除する目的で、C I A が秘密裏に科学的な見地に基づく拷問技術を確立した時期でもあった。単に身体的に罰を与えるだけでなく、「白紙状態」から新たな思想を植えつけるのだ。ショック状態に陥った人々を従わせ、一気呵成に新体制を形成するという点で、フリードマンが求める大改革は、拷問と同様の関係にあることを読み解く。

解答

- (1) 尋問対象となる人の五感に対していかなる入力情報もないようにし、さらに身体に対し不可抗力な刺激を浴びせかけ、周囲の世界を感知認識する能力を暴力的に断絶し、尋問に対する抵抗をなくす段階。
- (2) e
- (3) 「全訳」の下線部③参照。
- (4) テロ攻撃により人々が混乱状態に陥ったところにブッシュ政権が付け入り、かつての考えすべてが「9.11 以前の考え」としてはねつけられ、新しい考え方や政策を受け入れさせられたということ。(90 字)
- (5) 「全訳」の下線部⑤参照。
- (6) 「全訳」の下線部⑥参照。

解説

- (1) 指示語の this は、直前の段落の CIA の教本にある「拷問」のやりかたを指す。ここをまとめる。
- (2) 拷問によって、尋問対象者は合理的判断を失い、自己の a「義務」b「財産」c「趣味」d「娯楽」を保護できなくなってしまう、というのはおかしい。

- (3) Experienced interrogators recognize this effect when it appears
- S V₁ O M

and

know that [節] .

V₂ O

[that 節内]

at this moment the source is far more open to suggestion,

M S' V' C₁

far likelier to comply,

C₂

than he was just before he experienced the shock.

「比較の対象基準」

- (4) 下線部中 this process とは、前段落内の、拷問によって尋問対象者が思考停止状態になり、自分の利益について考えられなくなったところで、尋問者の言いなりにさせる過程である。9.11 のテロ攻撃において「拷問」の役目を果たしたもの、「尋問者」の立場にあったもの、「尋問対象者」の立場にあったもの、「言いなり」にさせられたことをまとめる。
- (5)

◇ Never strong in our knowledge of history, は分詞構文。元の文は Since North

Americans had never been strong in our knowledge of history, ～.

◇ North Americans had become a blank slate

S V C

○—— 以下は、a blank slate の言い換え。

○ 言い換え部分の修飾関係を基底文に還元すると、

Mao said of his people as “a clean sheet of paper” on which “the newest and most beautiful words can be written.” となる。

(6) ◇ With everyone preoccupied by the deadly new culture wars,

付帯状況の with O C

the Bush administration was able to pull off

S V

what it could only have dreamed of doing before 9/11

O

○ O の部分を基底文に還元すると

It (= the Bush administration) could only have dreamed of doing [what] before 9/11 となる。

全訳

チリから中国、そしてイラクに至るまで、拷問はグローバルな自由市場の推進におけるひそかなパートナーであった。しかし拷問は望まれぬ政策を反抗的な各国国民に押しつけるために使われた道具以上のものである。ショック理論の根底にある論理の象徴でもあるのだ。

拷問、CIA の用語で言うところの「強制尋問」は拘束された者を彼らの意思に反して譲歩を強いるために、深い心理的混乱とショック状態に置くために考案された一連の手法のことである。1990 年代後半に機密扱いが解除となった CIA の手引書 2 冊に指針となる論理が詳しく述べられている。それらの本には、「抵抗する情報源」を言いなりにさせるには、彼らと彼らの周囲の世界を感知認識する能力を暴力的に断絶させることと説明されている。まず、五感に対していかなる入力情報もないようにすること（頭巾をかぶせる、耳栓をする、手足に枷^{かせ}をはめる、完全孤立状態にするなど）。次いで、身体に対し不可抗力な刺激を浴びせかけるようにするのだ（ストロボライト、大音量の音楽、殴打、電気ショックなど）。

この「弱体化」段階の目指すところは、精神に一種のハリケーンを巻き起こすことである。拘束された者は極度の退行と恐怖に追い込まれるので、合理的に思考したり、自己の利益を守ることがもはやできなくなってしまう。まさにこのショック状態にあるときに、大半の拘束された者は尋問者に望みの物を、情報であっても、自白でも、それまでの信念の放棄でも何なりと与えてしまうのだ。ある CIA の手引書は特に明確にこう説明する。「ほんのわずかな間かもしれないが、心理的ショックまたは麻痺状態とでも言える仮死状態に陥る瞬間が来る。それは対象者が慣れ親しんだ世界や、対象者のその世界内での自己イメージがいわば破壊されてしまうトラウマ体験もしくはそれに準ずる体験によって引き起こされる。③経験を

積んだ尋問者は、この効果が現れる時を見逃さず、この瞬間に情報源は、ショックを体験する前に比べて、はるかに暗示にかかりやすく、命令に対して従いやすくなっていることを承知している。

ショック理論はこの過程を正確に模倣する。取り調べ室内で対面で拷問が成し遂げられることを大規模に達成しようというものだ。一番わかりやすい例は9.11のショックだ。何百万人の人々にとって、「慣れ親しんだ世界」が吹っ飛ばされ、ブッシュ政権が巧妙につけ入った、深い混乱と退行の時期がもたらされたのだ。突然に我々は、それまで世界に関して我々が知っていたすべてのことが、もはや「9.11以前の考え方」として切り捨てられる、新紀元ゼロ年のような時に生きていることを悟ったのだ。⑤歴史についてあまり詳しくなかったのが、北米人は白紙状態になってしまった。つまり、毛沢東が人民を指して言った「一番新しく一番美しい文字が書き込める真っさらな一枚の紙」に。即座に新たな大勢の専門家らが現れ、我々のトラウマ後の意識につけこみ新しく美しい言葉を無防備になっているキャンバスに書き込んだ。いわく「文明の衝突」、「悪の枢軸」、「イスラム・ファシズム」、「国土安全保障」などの言葉だ。⑥誰もが全く新しい文化の戦争に心奪われた状態で、ブッシュ政権は9.11以前ではそうすることを夢見ることしかできなかったことを、うまくやり遂げることができるようになった。国外においては民営化された戦争を遂行し、国内においてはセキュリティー企業複合体を作り上げたのだ。

【4】

A.

解答・解説

- (1) The richest person in the world cannot buy my love.
最上級には「～でさえも」と譲歩の意味が加わる場合がある。
- (2) My boyfriend is older than I (am) by two and a half years.
本問は、My boyfriend is two and a half years older than I am. で書き換えられる。
○ by ～「～の分だけ」by を用いるのは若干複雑な場合。
- (3) It is far better to know too little than to know too much.
与えられた語 It に従い、形式主語 it を用いて英文を始める。
- (4) I hear that India is the first country that [to have] produced power from solar cells more cheaply than by burning diesel.
○ I hear that S V 「S V だそうだ」
- (5) I am as anxious as you are to get into business on the Internet.
as you are to get ～ とあるが、‘予定・義務・可能・運命・意図’などを表すいわゆる be to do ではないことに注意。
○ be anxious to do 「…したがっている」
- (6) You're the last person I expected to see here.
直訳では「ここで会うことを期待できる最後の人」となる。
- (7) There is yet more research necessary to make the findings conclusive.
比較を強調する副詞 yet を用いる。

- (8) The president became more and more eloquent toward the end of her speech.
more and more ～で「次第に〔ますます〕～」という意味。
○ eloquent 「雄弁な」
- (9) Sad to say, the prime minister of the country never stood in the shoes of ordinary people, much less (in the shoes of) the weak.
○ 否定文, much [still] less ～「ましてなおさら～ではない」
- (10) You should know better than to email your friends on your phone during the lesson [class].
○ know better than to do 「…するほどばかではない」

B.

解答・解説

- (1) I couldn't ask [have asked] for a better chance.
直訳は、「これ以上よりよいチャンスを求めることはできないだろう。」となる。
- (2) Males are not as likely as females to feel guilty after a drinking binge.
not as ～ as …を利用する。
○ binge 「(酒の入った) どんちゃん騒ぎ」
- (3) My father's car had no oil filter, but the engine lasted just as long.
the engine lasted just as long (as that with oil filter) などと考える。
- (4) Most people think that science is remote from the lives they lead every day, but nothing could be further from the truth.
○ Nothing could be further from the truth. 「これほど真実からかけ離れたものはない。」
- (5) When I heard the way he spoke, I realized that he was not less intelligent than I had expected.
○ ～ than S had expected 「Sが思っていたより～」
- (6) I feel no more sorry for those who get taken in by confidence men than I do for those who pay a lot of money to fortune tellers to bring back those they have lost.
○ no more A than B 「(～は) Bと同様Aでない」
○ be [get] taken in 「だまされる」

【5】

解答

- (1) h (2) e (3) i (4) j
(5) b (6) f (7) a (8) g

解説

- (1) h
「時間がわずかしかない。だから持てる時間を最大限に利用しなければならない。」
○ make the most of ～ 「～を最大限に活かす」
- (2) e
「誰も使うようなばかなまねはしない、下品な表現がいくつかある。」

- vulgar 「下品な」
- know better than to 不定詞 「…するようなばかなことはしない」
原義は「…するよりも物がわかっている」ということ。
Ex. You should know better than to trust him.
(君は彼を信用するような愚は犯さないほうがいい。)

(3) **i**

- 「私は彼と話をしたことさえない。まして彼とあなたの抱える問題を話し合ったことなどない。」
- 否定文, much [still] less … 「～しない。まして…しない」
 - 比較級を含む否定表現。
Ex. No explanation was offered, still less an apology.
(説明の申し出はなかった。まして謝罪などなかった。)

(4) **j**

- 「宗教に聖職者が必要でないのは、愛国心に政治家が必要でないのと同じだ。」
- A is no more B than C is D . 「AがBでないのは、CがDでないのと同じ」

(5) **b**

- 「文明国では最もありふれた労働者でさえ、未来の事を現在との関連で考えている。」
- 最上級の形容詞の用法に「～さえも」という意味を含む場合がある。
Ex. The wisest man sometimes makes mistakes.
(どんなに賢い人でも間違いをすることがある。)
 - ※ 「最も賢い人は間違える」ではないので注意。

(6) **f**

- 「その市場をリードしている会社は12種類もののビールを醸造している。」
- 'no fewer than 数' は、数が多いことを強調する表現。
Ex. No fewer than 13 foreign ministers attended the session.
(13人もの外務大臣が会合に出席した。)
 - 'no less than 数' でも同意だが、(3) で優先される。

(7) **a**

- 「私は算数ではジェーンに劣るが、歴史では勝っている。」
- 逆接の but より前だから、反対の「劣っている」になるはず。
 - be good [better] at ～ 「～がうまい」
cf. be bad [worse] at ～ 「～が下手である」

(8) **g**

- 「心の楽しみは、しばしば、体の楽しみより優れているとみなされていた。」
- A is superior to B = A is better than B
 - この型の比較をするのは、be superior [inferior ; senior ; junior] to ～ 「～より優れている [劣っている ; 年上である ; 年下である]」で、「ラテン比較級」と呼ばれる。

【6】

解答・解説

(1) less

less + 原級 + than : 劣等比較

= not as [so] + 原級 + as

「この本はあの本よりも便利でない。」

(2) more [rather], than

not so much A as B = more B than A = rather B than A ; B rather than A (A よりむしろ B)

「彼は先生というよりも学者であった。」

(3) the less, two

2 者の内での比較なので比較級の前に the が付く。

less old = younger 《劣等比較》

「メアリーは彼より若い。」 = 「2 人の中で、メアリーの方が若い。」

(4) no more than

no more than ~ = only ~ (～しか)

「千円しか持っていない。」

(5) as many as

as many as ~ = no less than ~ (～も)

「昨夜のコンサートには 5,000 人もの人々がいた。」

(6) at least

at least = not less than (少なくとも)

「彼女は少なくとも 1 万円は持っている。」

【7】

解答・解説

(1) No *other* bird is stronger than an eagle.

「鷲ほど強い鳥はいない。」

(2) Iron is more useful than *all* the other metals.

= Iron is more useful than any other metal.

「鉄ほど便利な金属はない。」

(3) I have *never* seen so interesting a movie as this.

「これは今まで見た中で最も面白い映画だ。」

ever (最上級・比較級の強調「かつて；今までに」) ⇔ never (一度も…ない) の変換に注意する。'so + 形容詞 + a + 名詞' の語順にも注意。